

JDream Innovation Assist 使いになし術ひろば

技術情報活用の交流会

第一回 2024/6/18 開催メモ

株式会社ジー・サーチ



本日のテーマ

産業トレンドを俯瞰してレポート化してみよう！

本日のアジェンダ

1. デモンストレーション 富田さん（パナソニックホールディングス）
2. デモの振り返り・ディスカッション

本日のコミュニティメンバー

- ・ 小暮さん（小） 古河テクノロジー株式会社 技術企画部
- ・ 瀧川さん（瀧） ENEOS 株式会社 中央技術研究所 知的財産室 知財企画グループ
- ・ 富田さん（富） パナソニックホールディングス株式会社 マニュファクチャリングイノベーション本部
- ・ 前岩さん（前） 日立造船株式会社 技術研究所 情報センター
- ・ 余田（余） ジー・サーチ

ディスカッション （参=参加者）

知見の浅い分野の検索について

余：検索時に注意していることはありますか？

瀧：なじみのない分野は「産業トレンド」や、産業トレンドがない場合は「概念検索」を使用。ある程度土地勘がある場合には詳細検索を使用している。

余：概念検索に使用する文章はどのように作成されていますか？

瀧：単語を入れるときや、Googleなどで詳しい文章などが見つければ、それをコピペで使うこともある。

余：概念検索では想定通りの結果が出力されている印象ですか？

瀧：スコア順でみると概ね想定通り。他分野の情報が出てくるのは仕方がない。

前：概念検索には、検索結果の文章からコピペすることがある。画面遷移するとグラフが消えるため、My グラフと式の履歴でグラフを再現したりして履歴の検索結果を比較したりしている。

余：産業トレンドのように決まった式を登録する際には「検索式保存」と「保存式を呼出」を使ってみてください。

余：知見のない分野について、初期調査で見るポイントは？

富：トレンドグラフと技術分類を見ている。

概念検索で質問に困った際は、生成 AI を使って 500 字程度で出力してもらう方法も有効。

グラフを確認する際は、発行年を 10 年分選択することが多い。過去に宇宙エレベーターについて調べた際に、変換点が想定よりも古かったことから、変化がクリティカルになるとがある。

瀧：トレンドグラフでは、グラフの変化の理由付けとして、グラフ上に社会的な因子（原発事故や地震、新型コロナなど）をプロットすることがある。グラフをスクショで撮り別ツールの上で（パワポなど）レポート化している。

余：グラフ画像は PNG ダウンロードの他、Windows の Snipping Tool も活用可能です。本日の資料で紹介していますのでご参考ください。

余：検索結果の絞り込み機能をお使いになることはありますか？

瀧：所属機関名の絞り込み機能を使うことがある。完全一致で絞り込めるのでノイズを落とせる。

参：検索式を作成される観点を教えて欲しい。

富：キーワードを入れて分類などで絞り込んでいく。

簡易検索に関しては言い換えを考慮する必要がある。

余：類似ワードを複数入力する場合は、検索 BOX の「いずれかを含む」を選択してワンスペースでキーワードを入力いただくと OR になります。もしくは、類似ワードを追加いただくと自動的に OR になります。検索後にグラフ左の絞り込み機能で IPC 絞り込みも可能です。

参：JDreamⅢと IPC 分類とのコンコーダンスが欲しい。

余：検討していきます。

参加者様とのディスカッション

参：IPC 付与の精度は肌感覚でも良いのですが、どの程度合っているのでしょうか？

瀧：肌感覚として、だいたい合っている感じはします。

前：絞り込みには使うが、概要を把握するために使用しているので、正しいかまでの検証はしていない。

富：そう間違っている感じはしない。絞り込みメインで使用。ゴミを含んでいることは前提で使っている

余：開発時点では検証を行っています。8 割くらいの精度。付与率は文献には 80%程度、新聞には 25%程度。

参：今回のような操作動画を常に見られるように整備してほしい。

余：このイベントの動画は難しいですが検討していきます。

余：調査でご専門の小暮さんが遅れて入られたので、改めて知見のない分野について、初期調査で見るポイントはありますか？

小：お客様の話をよく聞き、言葉を絵に描いてみると検索がずれない。そこから技術ワードに変換する。まず一般ニュースを調べるのも良い。世の中のトレンド、今どのような状況になっているのか把握する。

余：サービス利用開始をきっかけに、新聞の利用が増えたと聞いたが、実際の利用者の方でも新聞は活用されているか。

小：新聞を見ていないと実態を把握できない。JDream Innovation Assist は国内だけでなく、海外の記事も確認できるようになってきた。

余：はい。共同通信 PR ワイヤーの記事には海外からのプレスリリースが含まれています。

本日の振り返り

富：デモを行うだけでなく、他の方の活用事例を知ることができてよかった。

前：勉強になった。今回教わったことを実践したい。

瀧：皆さんの貴重な意見が参考になった。これからもよろしくお願いいたします。

小：調査は一人でやるより他の人の意見や、やり方を聞けることはとても参考になるし、それは他の方も同じなのだと分かりました。

放課後

次回テーマ

余：テーマはこのまま核融合発電で行こうと思いますがどうでしょうか？

小：いいのでは？この先どうなっているのか期待感もあるのでは？

余：では、もう少し今回のテーマに沿ってやってみましょう。

富：概念検索では限界があるので、分類等で掘り下げる必要がありますね。

余：生成 AI で作成した課題を概念検索する方法もあるかと思いますが、どうでしょう？

富：生成 AI で核融合発電の課題を 3 つ挙げてください、といったスクリプトで概念検索のための文章を作成することができそう。

前：Microsoft Copilot（自社で導入、要約を作成）で Web から取ってきた文章を要約して概念検索させることがある。文章作成には使えそう。

参：どんなプロンプトが概念検索にマッチしているのか分かったと良い。

前：概念検索の文章を作る際には、メインのワードが繰り返し出てこないよう何回か繰り返して調整している。元の文章はあまり考えずに、いくつかの文章を web 上から取ってきて Word にコピーし Copilot にかけて要約を作成することもある。

余：ChatGPT の要約みたいな機能ですね。瀧川さんは検索に生成 AI を活用されますか？

瀧：生成 AI はあまり活用していない。

富：社内専用の AI、Copilot のオープン AI は使用している。ただ、まだプロンプトの作り方がよく分からない人も多いのでは？

競合分析

参：今日のセミナーはとても参考になった。自社との競合分析によく使用しており、今後ポジショニングの分析などにも期待している。

瀧：競合分析はよくやっている。まずテーマで検索し、グラフ上でプレイヤー名を表示し分析することが多い。

余：「プレイヤー・競合から分析」から複数機関名を入力いただき「プレイヤーの技術分類」グラフを表示するとパイの内訳を機関名にすることができるので、比較したい機関名を選択いただくとその機関名でグラフを作成できます。

調査依頼への対応

参：研究者の方と対話すると深い検索になることが多いのですが、みなさんはどのように対応されているか。

前：以前は依頼を受けての調査はしていたが、詳細検索は基本 JDreamⅢを利用している。グラフを見せることが多い。キーワードを聞いて検索した結果から出てくる他の関連ワードなど（3 年ごとに合計し、キーワード傾向）などを見せる。ただ、詳しく検索してもらうのは研究者自身でないと分からない。ヒントとなる結果を提供するにとどまる。JDream Innovation Assist はグループ長などへの報告資料として使用することが多い。

情報の共有

瀧：結果を依頼者に共有することはある。画面共有をそのままよりも、レポート形式にして報告することが多い。雑談なら画面共有で見せる。7：3 でレポート作成が多い。

富：画面共有で情報共有することはあまりなく、調べた結果をレポート化して共有することが多い。詳しい結果よりも動向を見ることが多い。所属部署が新規テーマ探索のため、動向を知るために使う。グループ長への特定分野の概要をまとめる資料としても活用している。

また共起ネットワークを見ることで、大学の先生を訪問する前、来客が来る前に相手を把握するときに、単独で研究をしているのか・チームとして研究しているのか、繋がっている機関を把握するのに使える。

以上